

< 参考資料 >

2017年8月31日

東京電力ホールディングス株式会社

福島第一原子力発電所 乾式キャスクへの 回収ウラン燃料の装填について

経緯と背景

経緯

- 2017年8月17日 今後の燃料取り出しに向けて、共用プールから払出す燃料のキャスクへの組み合わせを検討開始
- 2017年8月22日 2013年に使用済燃料を収納した乾式キャスク8基の内、2基に回収ウラン燃料 4体が装填されていたことを確認
- 2017年8月30日 回収ウラン燃料は、通常のウラン燃料と核種組成は異なるものの同等に取り扱えるものであるが、乾式キャスクの装填に関わる検討が不十分と判断
- 2017年8月31日 追加的な検討に関わる時間を考慮し、乾式キャスクから回収ウラン燃料を取り出すことを判断

使用済燃料を再処理施設で再処理し、回収したウランの転換・濃縮を行い成型加工した燃料

背景

- キャスクの構造強度に係る安全解析では、通常ウラン燃料の核種、濃縮度、燃焼度等を入力条件に評価を行っている
- 回収ウラン燃料については、現状の設計条件に包含されていることを確認することが必要

現状と今後の予定

現状の保管状態

回収ウラン燃料4体を収納したキャスクは、乾式キャスク仮保管設備にて保管中

キャスク仮保管設備における以下の管理で異常は確認されていない。

- ・輸送時、容器表面、容器表面から1mの線量当量率を測定
- ・保管時、圧力・温度・線量率を監視
- ・定期的な巡視

今後の予定

- 準備が整い次第、乾式キャスクから回収ウラン燃料を取り出す

